

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	アイユー		公表日		令和8年 3月 25日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		個別療育では、一部屋を子どもと指導者の二人で使用している。広いスペースの中でアルミパイプ+布の仕切り板を設置し、利用者が一つひとつの物事に集中できる環境を作っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		平日は1対1の個別療育を行なっている。小集団活動の時も、職員を十分に配置している。	現状では適切だと考えるが、もう少し余裕がある配置数が望ましいと考えるため、近日常にその体制を計画している。
	3	平日は1対1の個別療育を行なっている。小集団活動の時も、職員を十分に配置している。現状では適切だと考えるが、もう少し余裕がある配置数が望ましいと考えるため、近日常にその体制を計画している。	8		利用者に応じて、環境整備をしている建物にはスロープや手すり、エレベーターが設置されている。建物はバリアフリー化している。館内放送に完備しているため、災害時を予測して対応できるようにしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		毎日、職員による清掃業務を徹底している。	療育のスペースを考えると少し大きい建物になっているので、もう少しコンパクトに、また年齢に合わせた飾り付けが必要だと考える。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		療育室の中に、クリアリングスペースを確保している。療育スペースとは別に個別の面談室を準備している。常に使えるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		毎日の打ち合わせの中で、いつでも目標に立ち返って話を進めるようにしている。PDCAに加え、夢(Dream)+目標(Goal)のDGPDCAサイクルにしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		土曜日に小集団活動をするたびに、保護者からのアンケートをとっている。保護者との個別面談、月に一度の小集団活動の中で保護者から希望/期待をヒアリングし業務改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		毎日の定例ミーティングで現状の把握共有、利用者の背景、現状、目標、ゴールの再確認を行いながら業務改善に繋げている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8		現状では行っていない。今後は第三者委員会を立ち上げる方向で計画する必要がある。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		事業所内での研修は定期的に行なっている。学会が提供するオンライン研修を視聴する機会があった。	オンデマンドの外部研修について情報共有していきたい。キャンパスゲートの他業務である国際教育関係者との意見交換などを常に行っているが、外部の研修を受ける環境作りが必要だと考える。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		事業所のインスタグラムにて公表されている。常に情報共有を行っている。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		4ヶ月ごとに、個別支援計画を改訂している。事業所内で検査などによるアセスメントも行なっている。常に新しい情報共有を行っている。利用者、保護者のニーズが把握し、計画を作成している。	よりニーズに合わせるため、より高い分析が必要だと思う。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		利用者、保護者ニーズをヒアリングし、それを元に何ができるのか、どうすればいいのか、いつ行うのか、その結果を踏まえて何を改善するのかを考えながら進めている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		毎日の打ち合わせ時に、各利用者の子どもの目標も確認している	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		月2回を基本として保護者面談を行い、学校や日常生活での様子も聞き取りをしている。計画、実行、理解、改善、対策という流れで行っている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	1	毎日の打ち合わせの中で、常に4つの支援について話題にするように心がけている	100%の項目が網羅されているか？と問われれば、まだまだ改善の余地があると思う。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		必ず職員間でブレインストーミングから始まり、その安全性、教育性を踏まえて話し合う環境を作っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		個別療育では、その都度変更するようにしている。月一回の小集団では、英語教育を基本に手指を動かす療育や、調理の進め方、デザイン性を高めるデコレーションなど、計画、実行、反省、対策を繰り返し行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		利用者、保護者ニーズに合わせることを最優先とし、計画を行っている。そのための、ヒアリングを怠らないように職員同士で情報共有を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		連日のミーティングで役割分担や支援計画情報の共有を行い、何の目的でどんな活動を行うのかについて確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		次の日に振り返りを行い、次週の療育内容をみんなで検討している。利用者、保護者の変化点に気がつくように職員間で情報共有をしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		日々の支援の後には、指導員は必ず支援記録を書き、翌日にはお互いに報告し合うようにしている	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		個別支援計画を4か月ごとに改訂する前に、モニタリングを職員全員で行い、保護者にも説明するようにしている。計画の変更については、その都度、利用者や保護者の思い、行動を理解し、共に情報共有を行い、必要に応じて見直しをしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	8		支援を行う際には、4つの基本活動を組み合わせ合わせた支援を考えるように毎日の打ち合わせで話している	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		療育内で、子どもに選択肢を与えて、自己決定する機会を設けるように意識している	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		保護者面談を担当している管理者や、対象の子どもの療育を担当している指導者が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	3	主に長期休暇中、子どもが通う学校の担任と面談を実施し、情報共有を行なった。教育センターの勉強会に参加し、連携強化のための関係づくりを行なっている。	学校以外の関係機関とも連携を深め、情報共有できるように連絡を取っていく必要がある。まだまだこれらの組織との連携を薄いと感じている。これは今後の大きな課題と認識している。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		送迎をしていないので学校の教員と直接話す時間は確保できないが、保護者を通して学校の様子や行事について共有している。	学校の教員との連携をするのに、時間調整が難しい、オンライン等も使いながら行っていきたい
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	6		現状では小学生の利用者で学校とは情報共有と相互理解に努めている。療育開始より早いうちに連絡を取り合っ、情報共有をしていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		8		現在は該当の児童がいないので評価ができないが、今後該当する児童がいる場合には適切に情報を提供していく。
31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		8		助言をいただくまでの連携ができていない。こちらから積極的に連絡を取っていきたい	

携	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。		8		海外の子供達の交流会（タイの小学生・中学生）との交流会を年に数回行っている。今後は、学校の長期休業中などを利用して、地域の子供達との交流も考えていきたい。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		8		放課後等デイサービス事業所の情報交換会には参加した。	
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	8			療育後の報告はもとより、2週間に1回程度、保護者面談の機会を設けるようにしている	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	1		面談の中で情報提供を行なっている。今後は、家族向けの研修会を実施していきたいと考えている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			事前に利用者、保護者への説明、紙ベースで伝えている。契約時に行なっている。	
保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			背景、現状、計画、実施、達成という流れで共通理解の下、進めている。保護者だけでなく、子ども本人に意向を聞いて個別支援計画に位置付けている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8			2週間に一度の保護者面談で説明を行い、計画に反映させている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			2週間に1回程度、個別に保護者と話す機会を設けている	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7	1		土曜日の小集団活動の中で、保護者やきょうだいも参加・交流できる活動を行なっている。	月に一度の小集団活動で保護者同士の交流する機会はあるが、まだまだ足りていないと認識している。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			保護者から苦情や支援に対する要望があった時には、速やかに対応し、結果を伝えるようにしている	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8			事業所のインスタグラムに投稿することにより発信している。	今後はHP上でも反映させていく計画をしている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			個人情報の管理は当然のこと、その業務に関わらない人員とのミーティングは別室で行い、個々の氏名が流れないように配慮している。個人情報は個別にファイリングし、鍵のかかる保管している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			口頭だけではなく、視覚支援やICT機器を使用して、伝わるように配慮している	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		8			地域住民との連携は現在できていない。長期休業中の小集団活動などに、地域の方々を招待する企画を考えていきたい
	非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			マニュアルは職員全員が常時見れるように保存し、研修等も行なっている。保護者にも周知し、避難訓練等も複数回実施している
47		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			研修等を複数回実施し、オンデマンド等を使った研修も行なっている	
48		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8			契約時に保護者に確認し、変更点がないかをモニタリングの際に毎回確認している	
49		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	1		現在は該当の児童がいないが、今後該当する児童がいる場合には適切に対応を行う。	食物アレルギーの把握はしているものの、医師の指示書までは作成していない。
50		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			安全計画、訓練などの共通理解とミーティングを繰り返し行っている。	
51		子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			施設内で考えられる事故の把握などを家族と共通理解をしている。	
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8			ヒヤリハットは定期的に、またはその都度行い、改善策が見つかるまで話し合っている。		

53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	1	マニュアルを確認するとともに、研修会も職員間で実施している	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	1	職員には研修会を複数回実施し、その際に確認を行なっている。	組織的に動けるような準備はできてない。こちらも今後の課題と考える。